

次代を担う**子どもたち**の **教育効果**をより高めるために

- 教育環境を整えることを目指します -



長崎市は、次代を担う子どもたちが今後、急激に「変化」する時代を生き抜き、活躍できるよう、子どもの自立を促すために学力を高め、他者と共生し、共に支え合うために社会性を育むことを教育目標の大きな柱としています。

そこで、義務教育の終点である「15の春」に、自分の夢に向かってスタートできる子どもを育み、その「めざす姿」を「**子どもが将来の夢や希望を自らの言葉で語り、実現に向けて努力している**」としています。

このような姿を実現するために、必要な教育環境について、地域や保護者の皆様と一緒に考え、十分な話し合いを行ってまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

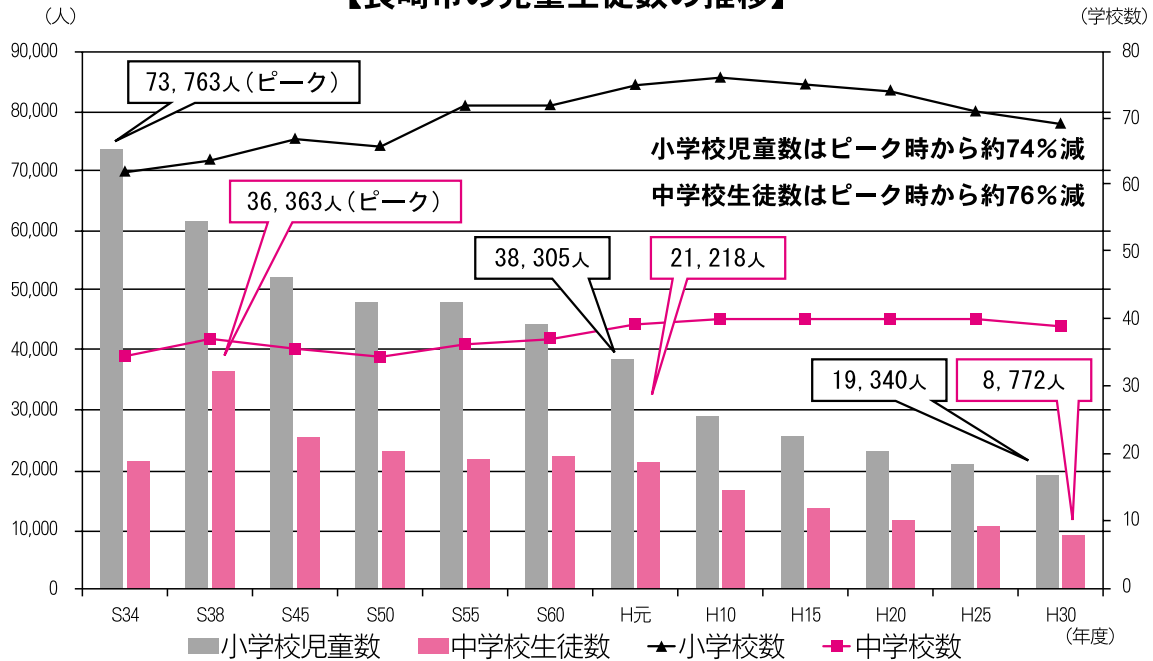
長崎市教育委員会

1 学校の現状 - 子どもの数が減少し、学校が小規模化しています -

全国的に少子化が進んでいる中で、長崎市の児童生徒数は、昭和30年代のピーク時から7割以上、平成元年度からは約半数減少しています。

その一方で、学校数は大きく変化していないことから、1校あたりの児童生徒数が大幅に減少し、多くの学校で小規模化が進んでいます。

【長崎市の児童生徒数の推移】



【長崎市の学校1校あたりの児童生徒数】

	児童数	生徒数
S30年代	1,190人	983人
H元	511人	544人
H30	284人	225人



ピークの時に比べて、1校あたりの児童生徒数もおよそ1/4に減っているんだね。

2 小規模校の教育活動

小規模校の教育活動の特徴として、次のようなメリット、デメリットが生じる可能性があります。

メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の目が届きやすく、細やかな指導を行うことができます。 ・授業や行事において、個人の活躍する機会が多くなります。 ・児童生徒相互の交流や理解が深まりやすくなります。 ・異学年間の交流が生まれやすくなります。 <p style="text-align: right;">など</p>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・切磋琢磨する機会が少ないため、競争心や向上心が育ちにくくなります。 ・卒業まで同じ学級で過ごすことで、人間関係が固定化されるおそれがあります。 ・中学校で全教科への教員が配置されない場合があります。 ・体育や音楽等の集団学習での活動が制限され、部活動の選択肢が少なくなります。 <p style="text-align: right;">など</p>

3 子どもたちが学びやすい望ましい学校規模

学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、子どもたちが集団の中で様々な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することで自らの考えを深め、協調性を育むことが重要です。

また、クラス替えにより新しい人間関係を築くことで、コミュニケーション能力を身に付けるとともに、社会の一員としての自覚を持って行動できるような教育活動が必要です。

とくに思春期を迎える中学校の3年間は、様々な人間関係を通して、集団のルールを学び、自らの個性や能力を伸ばすことが大切です。

このため長崎市では、子どもたちが集団生活の中で活気に満ちた活動ができるよう、望ましい学校規模を次のとおりとし、市内全域で学校規模の適正化と適正配置に取り組みます。



【長崎市が目指す望ましい学校規模】

小学校 12～18学級	【理由】 ・クラス替えができること ・学校全体の円滑な教育活動ができること ・同学年への複数の教員配置により共同研究ができること ・部活動の選択の幅が広がること ※中学校のみ ・全教科の教員配置ができること（9学級以上） ※中学校のみ
中学校 9～18学級	

4 優先的に検討を進める学校

児童生徒数が少なく、二つの学年が一つの学級で学ぶ複式学級を有する過小規模校（※1）と、施設の老朽化をふまえた小規模校（※2）について優先的に検討します。

（※1）**過小規模校**（小学校5学級以下、中学校2学級以下）

（※2）**小規模校**（小学校11学級以下、中学校8学級以下）

【取組の手法】

- ・通学区域の変更
- ・学校の統廃合

5 安全で安心な通学環境の確保

通学区域の変更や学校の統廃合により、通学距離・時間、通学路が変わることから、子どもたちの通学の負担や安全性に十分に配慮するとともに、保護者の経済的な負担の軽減を図ります。

【通学費補助について】（指定学校変更通学や区域外通学の場合は対象外）

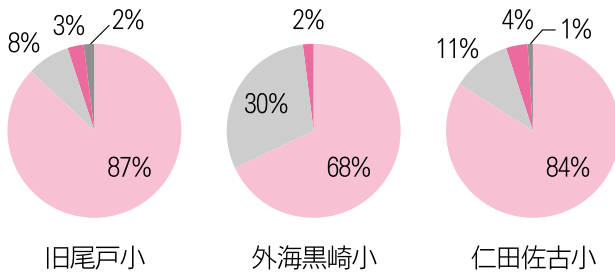
	小学校		中学校	
対象距離（片道）	2km以上4km未満	4km以上	3km以上6km未満	6km以上
補助の割合	運賃の1/2	運賃の全額	運賃の1/2	運賃の全額

(1) 統合が決定した学校（平成30年度以降）

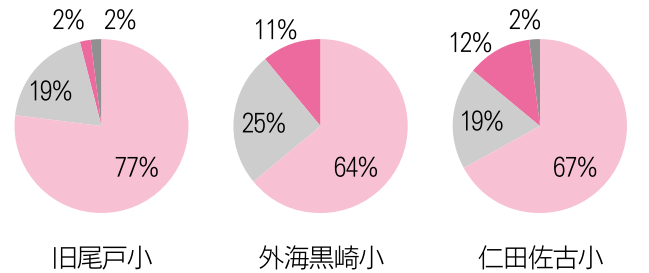
統合校	統合時期
尾戸小学校を長浦小学校へ統合	平成30年4月1日
式見中学校を小江原中学校へ統合	令和2年4月1日
川平小学校を西浦上小学校へ統合	令和2年4月1日
江平中学校を山里中学校へ統合	令和3年4月1日
南中学校を茂木中学校へ統合	令和4年4月1日
南小学校を茂木小学校へ統合予定	令和6年4月1日

(2) 統合から半年後の児童アンケートの結果

Q1 新しい学校には慣れましたか？



Q2 新しい学校は楽しくなりましたか？

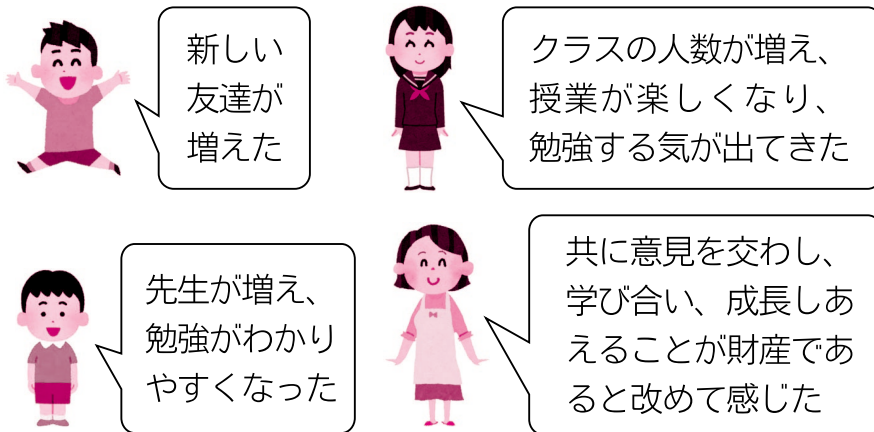


- 1 慣れた ■ 2 まあまあ慣れた
 ■ 3 どちらでもない ■ 4 まだ慣れていない

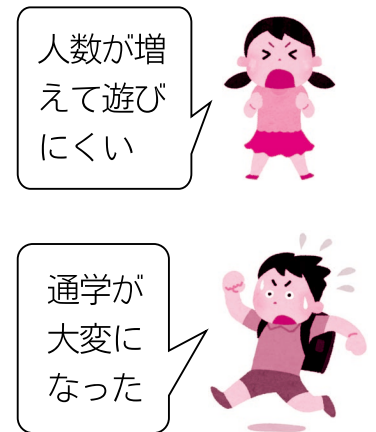
- 1 楽しくなった ■ 2 まあまあ楽しくなった
 ■ 3 あまり変わらない ■ 4 楽しくなくなった

(3) 統合から半年後の子どもたちと保護者の声

【良かったこと】



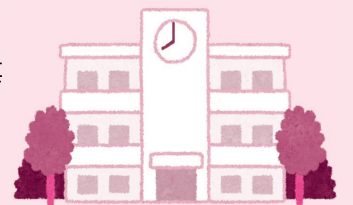
【課題】



保護者や地域の皆様との十分な話し合い

保護者や地域の皆様と「子どもたちにとって望ましい教育環境とは何か」という視点を中心にしなが、十分に話し合いを行ってまいります。

なお、学校は地域コミュニティの核として、防災や地域交流の場等の様々な機能を併せ持っており、地域にとっても大切な存在であるため、十分に配慮してまいります。



問い合わせ 長崎市教育委員会 適正配置推進室（市役所本館4階）

TEL：095-829-1170 FAX：095-829-1297 E-mail：tekiseihaichi@city.nagasaki.lg.jp